

音楽科学習指導案

5年1組 33名 指導者 伊東奈央

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 「見える図」等を活用し、感じ取った曲想と音楽の要素を関連付けて楽曲を分析することは、自分の思いや意図を明確にもち、音楽表現に結び付けるための手立てとして有効であったか。
- 「試す」⇔「聴き合う」活動を取り入れた協働的な「学び合い」を行うことは、曲想を生かした音楽表現を吟味し、自分の表現に生かすための手立てとして有効であったか。

1 題材 いろいろな音のひびきを味わおう

教材 「小さな約束」 佐井孝彰 作曲
「いつでもあの海は」 佐田和夫 作詞／長谷部匡俊 作曲
「リボンのおどり」 芙蓉明子 日本語詩／メキシコ 民謡／原由多加 編曲
「アイネ クライネ ナハトムジーク第1楽章」 モーツァルト 作曲
〔共通事項〕 音色、リズム、旋律、強弱、音の重なり、音階、調、拍の流れ、フレーズ、
反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係

2 目標

- 楽器の音の特徴や音色の違い、旋律とリズム、旋律と伴奏が重なり合う響きを味わって聴いたり、演奏したりする。
- 楽器の音色や音が組み合わさる響き、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくったり演奏したりする。

3 題材の評価規準

- いろいろな音が重なり合う響きやリズムの面白さに興味・関心を持ち、歌ったり演奏したりする学習に意欲的に取り組もうとしている。【音楽への関心・意欲・態度】
- 互いの声や旋律の重なりを聴き取り、全体の響きが変化していく面白さを感じ取りながら重ね方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや意図をもっている。【音楽表現の創意工夫】
- 楽器の音色やリズムを組み合わせ、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして、リズムアンサンブルをつくっている。【音楽表現の技能】
- 弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。【鑑賞の能力】

4 題材について

(1) 題材について

本題材では、歌声やいろいろな楽器の音が重なり合うそれぞれの響きを味わい、それを生かして演奏の仕方を工夫して、思いや意図をもって演奏したり、曲想とその変化を感じ取って想像豊かに聴いたりすることができるようになることがねらいである。

「小さな約束」と「いつでもあの海は」は、和声的な合唱（合奏）と多声的な合唱（合奏）が曲想に応じて効果的に使い分けられている。互いの声（音）をよく聴き合ったり、音量のバランスに気をつけたり、互いの声（音）を溶け合わせて美しい響きを感じ取らせたりすることで、旋律の重なり方に合った表現を工夫できるようにしたい。

「リボンのおどり」は、旋律が何度も反復する曲である。パートの重ね方や速度、強弱など、演奏する楽器の組み合わせ方を工夫させることで、組み合わせの楽しさを味わいながら演奏することができるようにしたい。

「アイネクライネナハトムジーク第1楽章」は、全員で同じ旋律を演奏して始まり、旋律の重なり方が変化していく曲である。旋律の重なり方の変化が生み出す面白さを味わいながら聴くことができるようにしたい。

これらの学習は、6年生の題材「いろいろな音のひびきを味わおう」で、役割の異なるパートの音が重なり合う響きを感じ取って、楽器の特徴を生かした合奏や音楽づくりをする学習へ発展していく。

(2) 子どもについて

子どもは、これまでに第4学年「せんりつの重なりを感じ取ろう」や「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」の学習において、みんなで声や音を合わせて演奏することで、旋律が重なり合う綺麗な響きを味わったり、音色を中心に音の重なりや音楽の仕組みとのかかわりを取り上げながら、表現を工夫したりする経験をしている。

本題材における子どもの実態を観ると、旋律の特徴や重なりに関心を持ち、歌い方を工夫したり、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌ったりしようとする子どもが増えている。また、歌詞の内容や旋律の特徴から曲想を感じ取り、一人一人が思いや意図をもって表情豊かに表現を工夫できるようにもなっている。しかし、旋律が重なり合う音楽の表現を工夫して、フレーズの歌い始めや息つきに気を付けて歌う能力や、楽譜を見て音程やリズム、強弱などに気を付けて歌う能力につなげる経験は、まだ十分とは言えない。

(3) 指導について

本題材では、「見える図」等を活用することで、曲の特徴と音楽を形づくっている要素を関連付けて楽曲を分析し、自分の思いや意図を明確にもつようにすることで、いろいろな楽器の音色や音が重なる響きの美しさや、旋律の重なり方の違いが生み出す曲想を感じ取りながら、音の重なり合いに焦点を当てて表現の工夫ができるようする。

また、「試す」⇔「聴き合う」活動を設定することで、歌詞の内容と音楽を形づくっている要素とのかかわりを感じ取らせながら、より豊かな表現を追究できるよう指導していく。

5 指導計画（総時数13時間）

主な学習活動【評価規準】		〔共通事項〕	時間
小さな約束 1 主旋律や副旋律をリコーダーで演奏したり、ハ長調とイ短調の音階の違いを比べたりする。 【関：イ短調の楽譜を見て演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。】 2 短調の響きを感じ取りながら二部合奏をする。 【技：イ短調の響きを感じ取り、互いの音を聞き合いながら、自分の音を調和させて演奏している。】 同じ旋律を演奏する前半と、2つに分かれて演奏する後半部分を比較することで、曲の特徴に気付かせ、互いの音を聴き合いながらイ短調の響きを感じ取って演奏することができるようにする。		旋律 音階 調 音色 強弱 音の重なり	1 1
いつでもあの海は 3 曲の感じをつかんで主旋律を歌ったり、旋律の重なり方を感じ取って副次的な旋律を歌ったりする。 【関：旋律の重なり合う響きに興味・関心をもって歌う学習に意欲的に取り組もうとしている。】 4 歌詞の内容や楽曲の特徴を生かした表現を工夫して二部合唱をする。 【創：互いの声や旋律の重なりを聴き取り、全体の響きが変化していく面白さを感じ取りながら、重ね方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや意図をもっている。】 互いの声をよく聴き合ったり、音量のバランスに気を付けたり、互いの声を溶け合わせて美しい響きを感じ取らせたりすることで、旋律の重なり方に合った表現を工夫できるようにする。		旋律 フレーズ 音の重なり 強弱 音色 音楽の 縦と横 の関係	2 2 (本時)
リボンのおどり 5 楽しい踊りの曲の感じをつかみ、それぞれのパートの特徴をとらえて演奏する。 【関：いろいろな音が重なり合う響きやリズムの面白さに興味・関心をもち、歌ったり演奏したりする学習に意欲的に取り組もうとしている。】 6 重なり合う響きの変化の面白さを生かして、表現の工夫をする。 【創：互いの楽器の音の重なりを聴き取り、全体の響きが変化していく面白さを感じ取りながらパートの重ね方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや意図をもっている。】 7 グループで工夫した「リボンのおどり」を発表し合う。 【技：互いの楽器の音や旋律、リズムの重なりを聴き合いながら、パートの重ね方による全体の響きの変化を生かして、演奏している。】 「試す」⇔「聴き合う」活動で、それぞれの演奏のよさを見付け、音の重なり合う響きの面白さを感じ取ることで、パートの重ね方や反復する回数、強弱を工夫することができるようにする。		リズム 音の重なり 拍の流れ 音色 音楽の 縦と横 の関係	1 1 1
アイネクライネナハトムジーク第1楽章 双頭のわしの旗の下に 8 旋律の重なり方に気を付けて聴く。 【鑑：弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。】 弦楽器の種類や音色について学習し、「いつでもあの海は」の学習を思い出ししながら、旋律の重なり方の変化や弦楽器の響きに気をつけて聴く。		音色 速度 旋律 強弱 反復 変化	1
～リズムを選んでアンサンブル～ 9 いろいろなリズムや音色の組み合わせを楽しむ。 【関：いろいろな楽器の音が組み合わさる響きに興味・関心をもち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。】 10 音楽の仕組みを基にして自分たちのリズムアンサンブルをつくる見通しをもつ。 【創：楽器の音色を聴き取り、その組み合わせによる響きを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かし、どのようなリズムアンサンブルにしたらいかにについて見通しをもっている。】 11 いろいろな音楽の仕組みを使って、自分たちのリズムアンサンブルを作る。 【技：楽器の音色やリズムを組み合わせ、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして、リズムアンサンブルをつくっている。】 「試す」⇔「聴き合う」活動で、いろいろな音楽の仕組みを使って、自分たちのリズムアンサンブルを作り、強弱や速度なども工夫することで、よりよいアンサンブルに仕上げられるようにする。		音色 速度 旋律 強弱 反復 変化	1 1 1

6 本時（6／11）

(1) 目標

互いの声や旋律の重なり合いを聴き取ったり、全体の響きが変化していく面白さを感じ取ったりしながら、歌い方について工夫することができる。

(2) 評価規準

互いの声や旋律の重なりを聴き取ったり、全体の響きが変化していく面白さを感じ取ったりしながら重ね方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや意図をもっている。

【音楽表現の創意工夫】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、「音楽遊び」や前時までの学習の想起をすることで、体も心もリラックスして音楽性を身に付け、歌詞の内容や旋律の特徴から感じ取った情景を思い浮かべることができるようにする。「見通す」過程では、前時の録音などを聴くことで、表現を工夫して変化のある音楽にしたいという願いを切実にもてるようにし、本時の課題解決への意欲を促す。「追究する」過程では、旋律の特徴について気付いたことを、「見える図」等を用いて思考を整理させたり、グループに分かれて「試す」⇔「聴き合う」活動をさせたりすることで、楽曲のよさや、歌詞の内容とのかかわりを感じ取らせながら深く考え、試すことができるようにする。「磨き合う」過程では、グループの発表を生かしながら全体で「試す」⇔「聴き合う」活動を行い、表現を練り合っ高められるようにする。「振り返る」過程では、感じ取った音楽的な特徴を表す言葉を

取り入れながら振り返りを発表することで、音楽表現の高まりや達成感を味わわせたい。

(4) 本時の展開 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ	5	1 「音楽遊び」で体と声、耳をウォーミングアップする。 <ul style="list-style-type: none"> 体がほぐれると、声も出しやすくなったよ。 ハーモニーが綺麗に響くようになってきたね。 	○ 体や声、耳のウォーミングアップする「音楽遊び」を取り入れることで、音楽性や雰囲気が高めることができるようにする。 ○ 「音楽遊び」の最後には、前時で学習した教材を歌うことで、既習事項の想起ができるようにする。 ○ 本学級の子どもが前時に歌った録音を聴かせたり、美しい響きで声を重ねて歌っている範唱を聴かせることで、「イメージに合った歌い方をするにはどうしたらいいだろう」という切実な願いをもって歌い方の工夫について探究できるようにする。
見通す		2 学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">重なり合う美しい響きで歌うためには、どのような工夫をすればいいだろう。</div>	
追究する	15	3 前半部分の旋律の特徴に合った歌い方を考え、話し合う。 関連付ける <ul style="list-style-type: none"> 音色を変えて、柔らかい声で綺麗に歌いたいな。 明るい声で歌うとよく響くようになりそうだね。 3段目以降は特に、お互いに声を聞き合って、あまり強く歌わない方が、綺麗に響き合いそうだ。 ハーモニーをつくるには、音程をしっかり取ることも大切だね。 	○ 曲のイメージに合うような歌い方ができるように、「見える図」等を使って曲の特徴を音楽の要素と関連付けながら整理し、思いや意図をもって表現の仕方について考えることができるようにする。 ○ 「音色」や「強弱」、「音の重なり」、「発音」など、工夫したい歌い方の視点をはっきりさせながら話し合うことで、めあてを達成するために大切な音楽の要素を捉え、音楽の表現について考えることができるようにする。
磨き合う	20	4 グループの発表を基に、全体で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> 私たちの班は、柔らかくて明るい響きになるように、口の中を開けて、ほっぺを上げるようにしながら歌いました。 A班は、みんな頭声で歌うことができている、とても綺麗なハーモニーで歌っていました。 全員で歌ったら、響きがもっと良くなって感動した。 	※ 互いの声や旋律の重なりを聴き取ったり、全体の響きが変化していく面白さを感じ取ったりしながら重ね方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや意図をもっている。 (ワークシート見取り、演奏聴取)
振り返る	5	5 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">綺麗なハーモニーをつくるには、音量のバランスを考えたり、柔らかくて溶け込むような声が必要である。</div> <ul style="list-style-type: none"> 綺麗なハーモニーをつくるには、一生懸命自分の声を出して歌うだけではなく、みんなの声が聞けるようにするのが大切だっていうことが分かったよ。 特においかけっこで歌うところが、綺麗に重ねられるようになって嬉しかったです。 これからの合唱の勉強でも、もっと柔らかくて響く歌い方で歌えるように頑張りたいな。 次の題材の「リボンのおどり」でもこの工夫が使えるそうだね。 	○ 積極的に歌い方を工夫している子どもには、まだ気付いていない音楽を形づくっている要素に着目させて歌うよう助言する。 ○ 活動が停滞している子どもには、教師と一緒に歌い試したり掲示してある歌い方ヒントカードを見て歌うよう助言したりする。 ○ グループの歌い方のポイントについてそれぞれ「試す」⇔「聴き合う」活動を取り入れることで、工夫について考えたことを実践を通して音楽表現に生かすことができるようにする。 ○ 思いや意図を音楽表現に結び付けられるように、グループの良かったところや教師からのアドバイスをもとにしながらか、歌い方を最後まで研究することができるようにする。 ○ 学習のめあてをもとに学習を振り返るとともに、本時の感想を述べさせ、自分たちで音楽をつくり上げたことへの称賛を行い、達成感を味わわせる。